

優秀賞（岩手県知事賞）

水のある風景

盛岡市立飯岡中学校

三年 菊池きくち 彩夏あやか

「湧き水公園」と呼ばれている緑地が私の家の近くにある。休日になると地域の人がたくさん遊びに来ている。夏の日差しが強い日には東屋で休んでいる人もいる。まさに憩いの場だ。

たくさんの人に「湧き水公園」と言われているように、その緑地は湧き水が出ていて周りにはさまざまなた木々や花などの植物が植えられている。湧き水が流れる所にはザリガニやアメンボといった生き物もいる。夏になると、周りにある木のおかげで涼しい上に、流れている水は冷たいので、遊びに来る小学生の子も多い。私もその中の一人で、ほぼ毎日と行っていいほど、夏休みの間は友達と遊びに来ていた場所だ。

しかし、私が小学六年生だった時の夏休みのことだ。

それまででない大雨が降ったことがあった。その緑地の水が流れていた所は半分以上が泥で埋まってしまったのだ。いつもの風景が無くなってしまった光景を見て、言葉に出来ない悲しさのようなものと寂しさのようなものを感じた。雨のせいで川が増水し、道路にまで水があふれている状態で、雨が止んでも、しばらく何日かの間は道路に泥がたくさん残っているほどだった。私は、ここまでの大雨は初めてだったのでとても驚いたが、なにより怖いという気持ちがあったのを覚えていてる。

いつも何も考えずに使っている水。かたちは少し違うけれど、雨も水には変わりない。しかし、その水が原因で、きれいだった水がそうではなくなってしまったのだ。

自然災害を防ぐのはなかなか簡単なことではない。しかし、自然災害が起きる中での生活だからこそ、自然にある植物や生き物、そして水の大切さがわかると思う。私たち人間も動物も自然とともに生きているの

だ。私も、大雨の後、泥だらけになった緑地の水を見て、初めて水の大切さに気づいた。あの緑地にあった草や木も水がなければ成長できない。ザリガニやアメンボなどの生き物も住みつづけることができない。そして何より私は、たくさんの植物に囲まれていたり、生き物がたくさんいたり、きれいな湧き水が流れていた。「湧き水公園」の風景が大切なものと気づいた。

私の生活の中にある、水のある風景があたりまえになっていたのだ。水は、料理を作ったりシャワーをあびたりなどでの大切さもあるが、植物や生き物などにも水は必要で大切だ。このような大切さを、水のある風景が気づかせてくれた。

自然災害はたくさん場所で起こっているし、豪雨だけではなく、津波など他にも水に関係する災害はいろいろある。でも、「自然災害が起きた」ということで終わらせるのではなくて、水のある暮らし・生活の大切さや、水のある風景の大切さについて改めて一人一人が考えてみなければならぬと思う。

私は、きれいな水が流れ、その周りにはたくさんの植物とたくさん生き物がいる、そんな水のある風景を残したい。また、このような水のある風景が増えてほしい。そして、水のある風景を大切に思う人は、私以外にも世界中にたくさんいるはずだ。建物ばかりの場所や砂漠の中に住む人。温暖化について考える人。誰だって水のある風景が増えてほしいという思いがあるのだ。

水のある風景を守り、そして増やすためには、改めて水の大切さだけでなくその恐ろしさにもふれたり考えたりして生活をしていかなければいけないと感じた。十年後、または二十年後、私たちが大人になった時も、あの緑地が「湧き水公園」と呼ばれ、子どもたちが声をあげてきれいな水で水遊びをしている姿を、そんな水がある風景を私は見たい。

(注) 原文のまま浄書しています

優秀賞（岩手県知事賞）

私たちの水

遠野市立遠野東中学校

二年 菊池 美帆
きくち みほ

当たり前のように使っている水。水で顔を洗い、水がたっぷり張ってあるプールで泳ぐ。しかしこれらは、とても幸せなことなのである。

去年、学年で岩手大学に行ったとき「人が使える水は地球にどれくらいか」という講義を聞いた。その講義では、「地球の水のうち、海水は九十七・二%、真水は二・八%で海水は生活用水には使えない」と言っていた。私はとても驚いた。なぜなら「海水は生活用水には使えない」と言っていたからである。もちろん真水がとても少ないことにも驚いたが、私は海水は普段の生活で使えると思っていた。だからテレビや本で地球の使える水が徐々に減っているという話を見聞きしてもあまり気にしていなかったが、この講義を聞いて

とても心配になった。さらにこの真水の二・八%には汚い水もふくまれているため、本当に使えるきれいな水は〇・〇〇三%しかないという。具体的に言うと二Lのペットボトルが地球全体の水だとすると本当に使えるきれいな水は約一滴である。私はこの講義を聞いて多くの不安が押し寄せてきた。この一滴の水を私達は当たり前のように使っているのだ。それではいつか本当に使える水がなくなってしまう。

そして、本当に使えるきれいな水がなく、汚い水を使って生活している人達がすでにいるのだ。

岩手大学の講義を聞く前に総合の時間で、渡された資料の中に水の使用量についての話があった。そこには一人が一日に使う生活用水量は世界平均で約百七十L、日本人は約三百五十Lと書かれていた。さらに、輸入された食品や製品に使う水の量も合わせると日本人が使う水の量は世界で一番多い。私はこのことでも悲しかったのだが、もっと悲しかったのは世界では五人に一人（約十二億人）が安全な飲み水を手にするこ

とができない、途上国では子どもが八秒に一人、水に関係のある病気で死んでいるということだ。多分この死んでしまう子供達の中には私よりも幼い子供もいるのだろう。このままではいけない、講義を聞いてからこの資料を読み返して強く思った。

またこの問題を聞いて疑問に思ったのがなぜ人々が使う水の量に多い少ないなど差があるのかということだ。地球の本当に使えるきれいな水は〇・〇〇三%しかないのだから世界の人々に平等に分ければ水に関係のある病気で死んでしまう子供達もいなくなるのではないかと思った。しかし今の経済の仕組みではうまく分配されず、本当に使えるきれいな水を使えない人がどうしても出てしまうそうさ。

私はこの講義を聞いて以前よりも節水に気を配るようになっている。手を洗うときは蛇口を閉める。水を出しっぱなしにしている友達には注意をする。友達にはいやな顔をされるのだが死んでしまう子供達を思うと節水してほしいと思うのだ。

次に私は未来に向けて私達がしなければいけないことは何だろうと考えてみた。それは世界の人々に平等に水を分ける仕組みを作ることと水は当たり前に使えらるという考えを改めることではないかと思う。

水は人間が生きてゆく中で必ず必要なものなのだ。世界中の人々がいつまでも幸せに暮らせる未来は私達の行動でつくらなければいけない。

(注) 原文のまま浄書しています

優秀賞（岩手県知事賞）

あの日、水不足を体験して

盛岡市立飯岡中学校

三年 佐藤 さとう
香穂 かほ

崩れた山の斜面、橋、つぶされた家々…。

熊本県を中心とする九州の大地震で、住む家をなくした人たちが避難所に集まっている映像を見て私は、五年前のあの日を思い出さずにはいられません。命を亡くした人、住む家をなくした人、今後の生活に不安を抱く人、さまざま被害をひきおこした災害、私たちはそれまで経験したことのない生活を送りました。当時の生活で困ったことの中で一番困ったのは水の事でした。

あの震災の日、私はまだ小学四年生でした。水が無く、私の住んでいるアパートにある貯水タンクから水をもらったり、飲料水をわざわざ買ってきたりしていました。また、洗い物ができないので、お皿を汚さな

いたため、ラップをしたり紙皿や紙コップ、割りばしを使用していました。お風呂に入るために、比較的普及が早かった、父の実家で何日間か泊まらせてもらっていました。

私の母の方の実家は、沿岸部の大船渡市にあり、大きな被害を受けました。一か月の間水が出なかったそうです。飲み水は、山の湧き水をわかつて飲んだそうです。母の実家の近くの山に、湧き水があると教えてもらうまで私は、その湧き水の存在すら知りませんでした。しかし、母に聞いてみると母は、小さい頃に、その湧き水を見に行った事や祖父母が苦労していた事などを教えてくれました。

山の水を、ホースから引っぱり、大きいタンクに溜めて使っていたそうです。台風の日には水を使用すると濁った水が出てしまうため蛇口にガーゼを巻き、水をろ過していたと話してくれました。すると、その話を聞いていた父が、葛巻にある祖父の実家も、山の水を引いていましたが、五年前の震災で水が止まってしま

ったと教えてくれました。

私は、山の湧き水が人の生活にこんなにもたくさん使われているとは、思っていなかったのです、この話を聞いて、とても新鮮でしたしとても驚きました。

私の卒業した小学校の近くには、「鹿妻穴堰」という、大きな用水路があります。これは、地域の水田に水を引くための用水路です。剣長根の岩山に、げんのような道具を使って人力でトンネルを掘ってつくられたものだど小学校の頃学習しました。水田に水を引かなければ、稲は育ちません。そのため水を引く引かないで争いになり、多くの犠牲者も出たほど大切な水でした。現在のように住み良く暮らせるようになるまでには、たくさんの方の苦勞と犠牲があった事を私達は、忘れてしまっていると思います。

蛇口をひねれば、水は出てきます。五年前水が止まり、一番困ったのは水がないことでした。水は普段多くの所で使われています。トイレ、お風呂、食器洗い、洗濯、手洗い・うがい、調理など、さまざまな所で、

使われていたのに、それがすべて止まり何もできない状態になった時、いつもあたり前のように水が飲めること、使えることに対し、初めてありがたく思いました。

しかし、私達はあの日の出来事を、離れたわけではないのに、復興が進み、元の日常に戻るとともに、水はあつてあたりまえ、という感覚ももどってしまったように感じます。水を節約しよう、とは言いますが最初から完璧にできるわけではないです。私達はまず、自分の日常を見つめ直すべきです。例えば、使わない時にはこまめに蛇口をしめるなど、自然がくれた貴重な水をむだにしないようにするなどの小さな努力から実践していく必要があると、私は思います。

(注) 原文のまま浄書しています

優秀賞（岩手県知事賞）

水との関わり

花巻市立東和中学校

一年 菅原 すがわら 颯 そう

この時期、わが家は蛙の大合唱に包まれる。水田に水が入ったことを喜ぶ声。それは、僕達が忘れがちな、命をつないでいくために水がどれだけ必要であるかを思い出させてくれる声だ。夏にはセミの声、晴れ渡る空に輝く虹。秋には空を飛ぶトンボや色づく木々。冬にはしんと振り積もる雪の中で、春の光を待ちわびる新芽や新しい命が静かに、けれど大地にしつかり踏み張って生きている。どれも水や太陽、澄んだ空気がなければ見られない風景だ。こんなに四季の移ろいを感じられる中で暮らしているのに、生活の利便性だけに心がとらわれ、そもそも水がどこからもたらされているのかも忘れ、自分勝手な行動をとる人が多いことがとても悲しい。

先日、僕はクリーン作戦に参加した。ゴミ拾いや水路の清掃をするものだ。ある一か所から、おそらくケース分はありそうな同じ種類のペットボトルや空き缶が見つかり、怒りで声も出ず、無言で拾い集めた。それは道路わきの林の中。すぐそばには水路があり、「自然を守ろう。ゴミ捨て厳禁」の立て看板もある場所だ。水路の水はにごり、とても悲しい気持ちでその水を見つめていた。

思い出すのは、五年前の大震災。僕の暮らす町では、電気以外のガスと水道はいつも通りに使うことができた。でもそれは、当たり前のことではなかった。普段の生活を守るために悲しみの中でも一生懸命働いてライフラインを守ってくれた多くの人が居たことを知った。水道が止まってしまった多くの市町村では、わずかな水も分け合い、給水車に並び、湧水や貯水池の水を生活用水にするためにバケツリレーで運んでいた僕達と同じ年の小中学生が居たことも知った。

「特別な事じゃない。するべき事は何かを考え、そ

れをやっただけだよ。」小学校の時交流活動をしていた釜石の唐丹小学校の皆さんが、すっかり前を向いて話したこの言葉が忘れられないし、忘れてはいけなあと思っている。

これまでも全国各地で地震だけでなく、大雨や水害といった自然災害が次々起こっているのは、正に地球からのSOS、人間への警鐘と捉えるべきではないだろう。そもそも人間の身勝手な生活によって水が枯れ、無くなったらどうなるだろう。まず生きていけない。水は飲み水であるばかりでなく、食としていたたく命全ての源になっている。生活用水がなければ衛生的に暮らしていくこともできない。更には自分たちだけではなく、自然界の食物連鎖の崩壊も引き起こし、生物を絶滅させてしまうことにもつながっていくだろう。そんなことは分かっていると多くの人が言うだろう。でもその中ですべき事に気づき、実際に取り組んでいる人は何人居るだろうか。

昔は道路にまであふれるほど水量豊富だった湧水が、

今では半分位の水量になってしまった場所が、隣の地区にある。僕はこの湧水にも助けられていた。幼き頃両足に赤い湿疹ができていた。風呂用の水をここの湧水に変えたらきつと治ると両親を始め、祖父母、曾祖父母が湧水を汲みに行ってくれたことを覚えている。今では、身体も大きくなり湿疹も出ないだけでなく、ほとんど病院に通院する事もない。ただ、小学校卒業までお世話になったスクールバスの窓から思い出の湧水の量がだんだん減っていくのを見るのはさびしく、何があったのだろうかと思っていた。

水に思い出がある人、無い人。限りある資源の水を守るためにやるべきことも人それぞれだろう。小さな気づきを大切にし、お互いの取り組みを認め合い、すべきことを当たり前にし、やってはいけないことは、絶対にやらない人間になっていきたい。暗い気持ちの中で飲んだ一杯の水に明日も頑張ってみようかなと勇気づけられた思い出を忘れずに。

(注) 原文のまま浄書しています

優秀賞（岩手県知事賞）

未来へ届ける水の故郷

花巻市立東和中学校

二年 多田 ただ 葵 あおい

私が住んでいるところは花巻市東和町の田瀬です。山々に囲まれ、珍しい動植物が数多く生息し、太鼓やカルタといった独特の文化が根ざす場所です。そして、私が大好きな田瀬湖があります。

一昨年、田瀬ダムは完成六十周年を迎え、その際の式典で、私は「望郷躍進の碑」を朗読しました。その碑には、

『昭和三十年に始まる田瀬ダムの歴史は昭和十六年の工事開始より戦時による一時中断を経て昭和二十九年竣工と歩んだ。その間、一七〇余戸におよぶ同胞が移転を余儀なくされた。古い歴史をもったわが故郷は、数々の思い出を秘めて湖底に没した（中略）』とあり、私は強い衝撃を受けました。それまでは田瀬

ダムについて深く考えたことはなく、ただ「田瀬湖はきれいだな。おかげで水が使えているんだな。」と思っていました。しかし、田瀬ダムはポンツと出てきたものではなく、工事開始から十七年もの長い年月を経て多くの人々の努力や深い苦しみと悲しみの中で生まれ、たものだと気づいたので。私だったら自分の愛する故郷がなくなってしまうのは絶対に嫌です。でも、その時の人々は何十年も先の私達のために田瀬ダムをつくってくれたのです。私は、昔の人々の強くて優しい心を感じました。田瀬ダムができたことによって田瀬湖と素晴らしい自然ができ、私達は水に恵まれた生活を送れているのです。私は、先人達が築いてきたこの田瀬を大切に守っていかなければならないという使命感を抱きました。

そんな中、偶然にも、田瀬ダム一日管理所長を体験する機会があり、参加してみました。そこでは、田瀬ダムの歴史や姿を学んだり、ボートに乗って田瀬ダムを一周したり、水質検査をしたりと、貴重

な体験ができました。田瀬ダムは、国の直轄ダムと重
力式コンクリートダムの第一号であり、多目的ダムと
してつくられたそうです。岩手五大ダムの中で最大の
貯水量を誇り、アオコ発生抑制対策も行っています。
さらに、田瀬ダム建設の様子は三船敏郎主演の映画「激
流」になっていることも分かりました。田瀬ダムにつ
いてたくさん知ることができ、田瀬の自然を守る第一
歩を踏み出せたようで嬉しかったです。家に帰って
から、家族に体験したことや学んだことを話し、田瀬
を守る方法を話し合いました。川にごみを捨てないこ
と、洗剤などの量に注意すること、節水をするこゝと。
田瀬のために何ができるかは、身近なところにたくさ
ん見つかりました。その日からは、家族みんなで、節
水を心がけることや、ごみ拾い活動への参加などを継
続しています。最近のごみ拾い活動では、テレビやタ
イヤまでごろごろと捨てられていました。母は私に、
「ほら見て、葵達のおかげでずいぶんきれいになっ
よ。」

と言いました。私は何だか嬉しくなりました。
今日も、田瀬湖は北上川の治水、発電や灌漑、そし
て地域の憩いの場として多くの人々に親しまれていま
す。今年二〇一六年はいわて国体ボート競技の開催地
にもなりました。ヨットハーバーや釣り公園では、大
自然に触れながら、ヨットやボート、釣りなどを楽し
むことができます。また、ヤマメなどの水中生物やシ
ジュウカラ、ツキノワグマ、ニホンカモシカといった
珍しい動物も生息しています。そして、夏には湖水祭
りが行われ、田瀬の自然と水空中花火の美しいコラボ
レーションを見に県内外から多くの人々が訪れます。
私は、田瀬湖も田瀬の自然も本当に大好きです。愛
すべき田瀬の姿を、絶対になくしたくはありません。
私は、田瀬の先人に感謝の気持ちを持ちたいです。命
の水を大切にすることが、田瀬の自然を育んでいくこ
とにつながるかと分かったから。この、大好きな田瀬を
未来に送り届けるために。

(注) 原文のまま浄書しています

佳作（岩手県知事賞）

鹿妻堰の水

盛岡市立飯岡中学校

三年 浅沼 あさぬま 莉菜 りな

私が毎日通っている通学路には、両側に水田が続き、用水路が流れています。ちょうど今頃の季節五月には、田んぼ一面に水が張り、田植えが始まります。日に日に緑が広がり、夏を迎える頃には緑一色になります。小さかった頃は、学校の行き帰りに友だちと葉っぱを流して遊んだりしました。夏も過ぎると、少しずつ水路の水量が少なくなると、秋になるとその水は流れなくなり、秋には田んぼの稲も黄金色に変わり、たくさんの実りを迎えます。私たちが毎日食べる米は農家のみなさんのおかげだと思えます。そして、そのお米を作るために、必要な水が流れている用水路のおかげなのです。

私の住んでいる飯岡地区はその名のとおり水田が広がる稲作地帯です。水田の水は鹿妻堰とよばれる水路から引いています。鹿妻穴堰土地改良区というところが管理をしています。用水路の本数は三十七本。その総距離は、約百三十一メートルにもなります。その鹿妻穴堰頭首工から水が送られている水田は、約四千六百ヘクタール。その広さは田沢湖の約二倍にもなるそうです。そして、鹿妻堰の水は、水田だけではなく、畑や果樹園にも使われているそうです。私は、用水路に流れている水は、水田だけに使用していると思っていたので、畑などにも使われていると知り驚きました。さらに調べてみるとそれだけではないという事も分かりました。

農業水路は、水田や畑に水を送るだけではなく、いろいろなことに役立っています。まず一つ目は、洪水を防ぐことです。大雨のとき、たくさんのお水を用水路に流して、洪水を防ぐのだそうです。三年前の大雨が降った時、家の周りの用水路があふれだすくらい流

れていることを思い出しました。あちこちの道路が冠水したり家まで水が上がってきたりと被害もありましたが、もし用水路がなかったら、その被害はもっとひどいものになっていたにちがいありません。二つ目は、生活用水に使うことです。農家の人たちが野菜や農機具を洗うことに使っているそうです。そして三つ目は、防火用水に使うことです。万が一地域で火事が起きたとき、消火用の水として使われるそうです。そして、最後の四つ目は、自然を守るといことです。用水路やその周辺は手入れされており、魚やホタルなどたくさん生き物のすみかになっています。私の学校のすぐ前の堰にそって、きれいな桜並木があります。農業水路は、水田を持っている農家だけではなく、地域に住む私達の生活を豊かにし、役に立っているのです。

るといこと、そして、水田だけではなく、農家のためではなく、私達地域に住むみんなに大雨の時、火事になった時、使われるということ。そのようなことも、実は私は知らずにいたのです。水がなくなり、稲が育たないと、米はできません。雨が降らないと野菜は枯れてしまいます。そのためにも用水路は大切です。水はとても大切です。私達の食生活に及ぼす影響はとても大きなものです。私たちの生活に用水路は深く関係していて、私たちの生活を支えているのです。

農業だけに関わっている用水路ではないことをもつとたくさんの方が知ったほうがいいと思います。地域の用水路にたいしての見方も変わるし、大切にしよう、地域みんなを守っていこうという気持ちにつながると思うからです。

小さい頃から見えていた鹿妻堰。私が生まれる前から、そこを流れているこの用水路の水は、私にとってあたり前のものでした。しかし、それは違いました。きちんとどの水田にも水がいくよう管理している人達がい

(注) 原文のまま浄書しています

佳作（岩手県知事賞）

地球の水を守る

花巻市立花巻北中学校

二年 菊池きくち 健太けんた

皆さんは、自分が一日にどのくらい水を使っているのか考えたことがありますか。日本では蛇口をひねればあたり前のようにきれいな水が出てきます。水道水だって普通に飲むことができますし、トイレなど衛生面で問題になることもほとんどありません。おそらくきれいな水が身近な生活の中にあるのは当たり前だと思っている人がほとんどでしょう。

その当たり前前のせいで僕をふくめ皆さんはいつい水をむだ使いしてしまっているようです。しかし、日本のようにきれいな水が日常的にある国は、世界中にそれほど多くは存在しません。では、他の国々はどうかしているのでしょうか。図書館で借りた本を参考に調べてみました。

最初に、世界各地の水の様子についてです。中国、ケニア、タイ、インド、ブラジルなどの国では水道水をそのまま飲むことはできないそうです。地元の人なら慣れているから飲めても、旅行者だとまず下痢になってしまうという国があります。また、中国やシンガポール、インドではそもそも生水を飲む習慣がないそうです。水道水がすぐそばで出ていても飲めない、また飲む習慣がないことには驚きました。また、そこが日本との大きな違いであると思いました。

水の汚染問題についても調べてみました。水が汚される原因として農業排水、工業排水、生活排水の三つが挙げられます。世界の人口が増え続けるのと同時に、水の使用量も増え、これらの排水は、川や湖や海にそのまま流されています。自然の水には、少しの水の汚れならきれいにする力があり、ある程度の汚染は放っておいてもきれいにされ水質は保たれてきました。しかし近年の人口増加と急激な工業化に伴い汚染物質の排出量は自然の浄化能力をはるかに超えてしまい水質

汚染を広げています。汚染された川や海に住む魚などを食べることで、僕達の健康にも影響が出る場合があるので、改めてほしいと思います。

次に、水は限られているということについてです。世界では川の途中にたくさんの方が存在していることがあり特に大きな川は数ヶ国も通過することになります。こういう河川を国際河川といいます。国際河川では上流の国から下流の国の順の取水されていき各国の生活用水のほか水力発電、農業用水・工業用水として利用されます。たくさんの方の国の人達が利用する国際河川ですがもし上流の国から順に自分達の国の事だけを考えると好きな量だけ勝手に取水してしまうと下流になるほど取水できる量が制限されてしまい下流の国が不満を持ち国際問題に発展してしまいます。周りを海に囲まれている日本では考えられない事です。川や湖の水は限られているのだから国同士で話し合い、分け合っていくべきだと思います。

最後に、世界各地の取り組みについてです。大阪市

水道局では、ベトナムのホーチミン市の水道事業改善計画に参加しています。また、日本及び世界のNGOやNPOの支援によりアジアやアフリカの農村やスラム街に井戸やトイレがつくられています。ほかにもライオン、ドナウ、メコン、ナイル、ザンベジの五河川では国際河川を管理するための河川委員会が設置されました。水問題の解決に向け世界が協力することで水は守られていくと思います。

水の未来を守るために僕達にできる事はたくさんあります。「歯をみがく時水を出しっぱなしにしない。風呂の残り湯を洗濯に再利用。トイレは大小のレバーを使いわけ。シャワーはこまめに止める。洗剤やシンナーを使い過ぎない。残飯をそのまま流さない。食器の汚れは紙でふいてから洗う。」などです。水の未来を守るには、大人達だけではありません。皆さんも地球の水を守るために、できる事から始めてみましょう。

(注) 原文のまま浄書しています

佳作（岩手県知事賞）

水と生活

遠野市立遠野東中学校

二年 佐々木 勇哉

僕は、家での生活でなるべく資源を大切にしています。電気や燃料はもちもんですが水もとても大切にしています。例えば、弟が風呂に入っているとき、シャワーが長かったので注意したこともあるし、家の畑で採れただいこんやにんじんを水道ではなく家の近くの川で、おじいちゃんといっしょに洗って土をとっています。また、水は自分やみんな、世界中の人たちにとってかけがえのない物だと僕は思います。生きていくための水、生活で使う水、色々な事に役立てる水をみなさんは一日の生活で水を見ないで過ごしたことは、まずないでしょう。それを考えると水はみなさんにとってなくてはならない大切な物なのです。

ところが近ごろ水が大切だという意識が薄くなって

きていると僕は思います。その一番の理由は川のゴミです。川に行くときたいがいゴミがあります。みなさんではなくてほんの一部の人だけだと思いますが、ゴミを平気で川に捨てていて水の大切さを分かっていないと僕は思います。僕は水の大切さをよく知っています。中一の時、校外学習で岩手大学に水の勉強をしに行った時です。大学の先生から

「人間が使える水はどのくらいだと思いますか。」

と聞かれたところ、僕は海や川などに大量の水があるのでそれくらいだと思っていたら、地球上にある水のうち海水は九十七・二パーセントあり、真水が二・八パーセントだということが分かりました。これなら人間が使える水は充分あると思っていたら、先生から海水は使えないと教えていただきました。これにはとても驚きました。地球上すべての水を二L分のペットボトルとして考えると真水は五十六ミリリットルです。さらに、真水の水も川と湖だけになるので人間が本当に安心して飲める水はたったの〇・〇〇三パーセント

になり、とても少ないといえます。この授業を受けて僕は初めてどれくらい水が大切ということを改めて実感しました。水は、地球に住む人たち、また動物たちにとっても貴重な資源なのです。

また、水と生活していくためにも行動をしなければなりません。川にゴミを捨てない、河川の清掃、ボランティア活動に参加するなどまだまだたくさんあります。僕にできることは家で使う水をできるだけ節約したり、川の清掃ぐらいだと思います。でも、一人一人が水に対する意識を持てば、水はきつといつまでも使いつづけていくことができると思います。

水について深く考えると色々なことが浮かんできます。水の大切さ、水はおいしい、水の量、水の節約などたくさんのが浮かんでくることでしょう。それはみなさんそれぞれでしょう。このことをふまえて僕が一番言いたいことは水がどれほど大切な資源なのかです。岩手大学で水について学んだことは、僕が水はとても大切だと思ったきっかけです。みなさんも、水

は大切だと思ったことは、きつとあると思います。僕はこれから今までやってきた水に対する意識を継続しつつ、また新たに自分にできることがないか考えていこうと思っています。みなさんも水に対してどのような生活していけば良いか考えてみてはどうですか。

(注) 原文のまま浄書しています

佳作（岩手県知事賞）

助け合う気持ちと、分け合う水

遠野市立遠野東中学校

二年 細川 ほそかわ 和可奈 わかかな

今私が住んでいるのは、日本という国にある岩手県遠野市です。岩手県は、自然がたくさんあって水もとてもおいしいです。

日本は、とても幸せな国だと思います。食べ物にも困らずに毎日毎日楽しかったり大変だったり：そんな日をおくれるのは、とてもすばらしい事だと思います。だけど今、世界では日本のような幸せを夢見る人達がいまいます。水を飲みたくても水が無い、学校に行きたくても行けない。そんな人達が世界にたくさんいることを知ったのは、小学校五年生くらいでした。

私は、テレビのニュースを飲み物を飲みながら見ていました。すると、ニュースを見て私はとても驚きました。

「きれいな水を、たくさん飲みたい。」

えっ：、とは思いました。きれいな水を、たくさん飲みたい、そんなこと一度も考えたことがなかったからです。のどが渴いたなあと思ったら、お茶やジュースや水がすぐに飲めるから、それが日常だったからです。私は、その時から不思議に思っていました。なんで、水か飲めないのだろうと。

私は、中学校に入学して今まで水のことについてたくさん調べました。

まず、今世界で飲める水が何%あるかです。世界の九十七・二%が海水で、二・八%が真水です。とても驚きました。今、私が飲んでいる水一滴一滴がとても大切なんだなあと私は思いました。

次は、水質調査です。私は結果を見て違いに気付きました。周りに建物が多い所の川は水が汚れていたけど、自然が多い所は、川の水がとてもきれいでした。その結果から私は自分で調べてみました。すると、水がない、水が飲めない国に多く共通していることが分

かりました。自然が無いのです。木や草がほとんど無くて荒れはてていました。その時、私は気付いたことがありました。普段、なにげなく見ているテレビに、「世界の森林を増やそう。」

と言う言葉の意味が初めて気が付きました。水が飲めない人達のために森林を増やして、たくさん水を飲ませてあげようとしていることを。私は、自分も何が出来ることはないかなあと考えました。そして、一つの考えが浮かびました。募金です。学校やスーパーなどに置かれている募金箱に一円でもいいから入れると私も世界の人達の力になれるなあと思いました。

私は、水について色々調べてみて改めて水の大切さを知ることができました。自分がもしも、水の無い所に生まれてきたら…、もう想像ができません。ただ、これだけは思うと思います。

「おいしい水が飲みたいなあ…。」

あの時テレビで流れていた気持ちと同じことを思いま

このことから私は、助け合う気持ちが大切だと思いました。日本は、東日本大震災や阪神淡路大震災などの時も世界から助けってもらったりしていたので、今度は日本が助けてもらった世界に恩返しので、今度も。まだ、小さなことしか出来ないけれど一つ一つ積み重ねていけば、きっと大きな力になると思います。これからも私は、世界の人達の幸せが来る日まで頑張っていこうと思いました。

(注) 原文のまま浄書しています

佳作（岩手県知事賞）

私は伝えたい

遠野市立遠野東中学校

二年 宮澤 みやざわ 花畝 かほ

私達にとって水は、かけがえのないものだと思う。では、その水を保つために必要なことは何か。

このように考え始めたのは、中学一年のある校外学習に行つて岩手大学の先生から、環境について学んだときからだ。それまでは、水について考えたことがほとんどなかった。

岩手大学では、「人間が使える水は、地球全体のうちの〇・〇〇三パーセントしかありません。」と、そう言われた。耳を疑った。信じられなかった。私は、これまで水に困ったことはなかった。むしろ、少しむだ使いでいたかもしれない。私の身の周りの人達もきつとそうだと思う。それなのに、〇・〇〇三パーセント。これはどういうことなのだろう。

岩手大学の先生は、さらに続けて「使える水が少ないと、さまざまな動物の絶滅の危機にもつながっている。」と言った。これは、人間のせいだと私は思う。むだに狩りをたくさんしたり、多くの動物たちの大切なすみかである森林を破壊したりしているのはすべて人間であるからだ。地球の温暖化が進んでいるのも、人間のせいだと思う。

また私は、自分達が住んでいる地区の水質調査も行った。私か住んでいる地区は、自然がとっても豊かで自慢できる地区だ。しかしいざ、地区の水質を調査してみると確かに透き通っていてきれいなところもあったが、見るからににごって汚染されているところもあった。なかには、ゴミが捨てられているところもあった。とてもショックだった。こんなに汚染された川に住んでいれば当然、魚それを食料としている動物たちだって絶滅してしまうだろう。そして、その川につながっている海も汚染されていってしまうため、海の中の生き物たちだって絶滅してしまうにちがいない。

さらに私は、普段の日常生活の中で使っている洗剤やシャンプー、トリートメントの量によって川の有機物の濃度が変わってくることを知った。最近、ついシャンプーやトリートメントを使いすぎていないか。食器を洗うとき、つい洗剤をたくさん出して使ってしまったってないか。振り返ってみてほしい。使いすぎてしまっているということは、それだけ川の有機物の濃度が高いということ。逆に、少ない量で済ませてしまえば節約にもなるし川の有機物の濃度を低くすることにもつながる。まさに、一石二鳥ではないか。

何にとつてもかけがえのない水を守るため、私達にできることが、身近にはもつとあるはずだ。

先人達は、どんな思いで水を守り続けてきたのだろうか。先人達が残した血と涙の結晶、先人達が守り続けてきたこのかけがえのない水を守り、未来の子孫達へ継いでいこうではないか。未来の子孫達のため、この自然豊かな地球を守るため、今、私達にできることを考えてみよう。

私は伝えたい。身近な自然からの警告に気付こう、と。そして、かけがえのない水を守り抜き自然豊かな地球をもつと愛そう、と。

(注) 原文のまま浄書しています